

マルコの福音書

第5回 イエスの権威

(1:21~34)

《アウトライン》

1. イエスの権威と悪霊の追い出し (21-28 節)
2. シモンの姑の癒し (29-31 節)
3. 奇跡の結果 (32-34 節)

《結論》 奇跡の記事から学ぶこと

《聖書研究メモ》

1:21-27 用語の解説

- ・ 安息日：モーセの律法で定められた休息の日。今でいう土曜日に当たる。
- ・ 会堂：ユダヤ人たちが、安息日ごとに礼拝を献げる場所。町ごとにあった。シナゴーク。
- ・ 律法学者：聖書が教えている生活や礼拝のルール（律法）の専門家たち。
- ・ 汚れた霊：悪霊（あくれい）ともいう。罪を犯して墮落した天使たちのこと。

1:22 「驚いた」

→ギリシャ語でエクブレイソウ。吹き飛ばされる；打ちのめされる；ショックを受ける；仰天する。

1:31 の別訳

→聖書協会共同訳：イエスがそばに行き、手を取って起こされると、熱は引き、彼女は一同に仕えた。

参考：マルコ 10:45 「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。」

1:32 「夕方になり日が沈むと」

→当時、多くの律法学者たちが、安息日に治療行為をしてはならないと考えていた。

ユダヤ的文化では、日が沈むと一日が終わる。つまり、人々は安息日が終わってから病人たちを連れてきた。